

TA経験者の体験談

理工学部 インテリジェント情報工学科

教授 土屋誠司

TAの責任と意義

▶ お仕事です

- ▶ お金を貰っていること，責任を自覚すること
- ▶ “いやいややらされてる”は通用しない

▶ 院生の醍醐味です

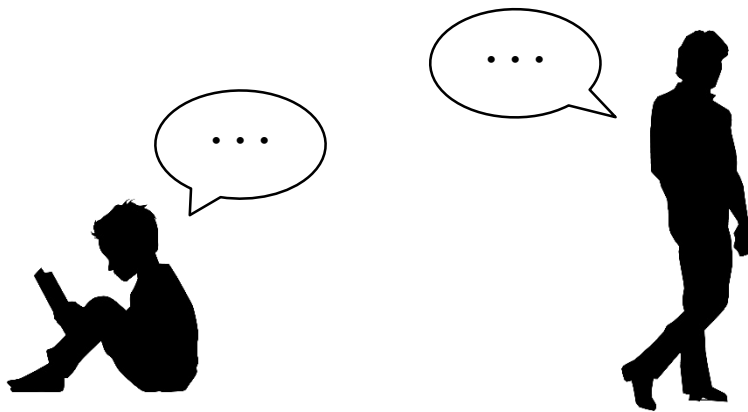
- ▶ “人に指導する”のは学部生との違い
- ▶ 院生としてのお勉強，経験の一つ



▶ 積極的に，自主的に，有意義に！

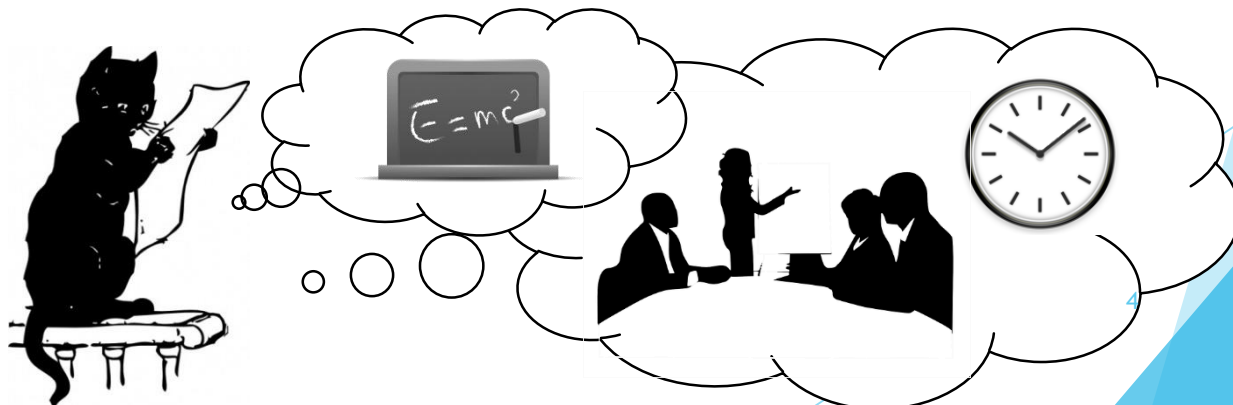
“先生”と呼ばれます

- ▶ 学生さんからすればTAさんは“先生”です
 - ▶ 「この科目の事は全部分かっているはず・・・！」
- ▶ 手際が悪いと
 - ▶ 「あの人に聞いてもなあ...」（見限られる）
 - ▶ 結構ショックみたいです...



事前準備は必須です

- ▶ “なんとなく分かっている”では無理
 - ▶ TA担当科目の内容をしっかりと理解しておく
 - ▶ 「今日の答え」だけ用意してもダメ
- ▶ 円滑に進めることの難しさ
 - ▶ 何をどこまでやるのか, スケジュールの把握
 - ▶ どのタイミングでどんな指示を出すのか



先生との連携もしっかりと

- ▶ 指示待ちはよくない
 - ▶ 自分からいろいろ聞いて動きましょう
 - ▶ もちろん、先生の方からの的確な指示をしっかりと頂けるはずですが...
- ▶ 改善点はバンバン出す
 - ▶ 先生だって完璧ではない！
 - ▶ TAの方が学生さんの感覚は分かるはず
 - ▶ 実施してみても初めて分かるミスもある



答えを教えるはいけない

- ▶ 言われた通りやるだけじゃ意味がない
 - ▶ 特に実習は「自分で考させる」のが大事
- ▶ “答えじゃないヒント”の出し辛さ
 - ▶ 軌道修正はしたいけど、ずばり答えはダメ...
 - ▶ 経験がものを言う？ 先輩に聞いてみる
- ▶ 学生さん個人に合わせたヒントの出し方
 - ▶ 聞きたそうにしてるけど手は上げない
 - ▶ すぐに答えを聞こうとしてくる

どうせなら楽しく進めたい

- ▶ 雰囲気作りは大切
 - ▶ やる気の無さはびっくりするほど感染する
 - ▶ 待ち時間や休み時間に話しかけてみる
- ▶ ぬるところはぬる
 - ▶ 「なあなあ」になり過ぎないように
- ▶ 反省会
 - ▶ 新田辺あたりで. . .

